令和４年度　第１回　豊田市地域経営懇話会　会議録

【日　時】令和４年１０月２１日（金）午後２時～午後３時
【場　所】豊田市役所南庁舎５階　南５１会議室
【出席者】（委　員）安藤　賢治　（足助地域会議）
梅村　洋平　（豊田青年会議所）
榎木　繁　（豊田市区長会）
尾原　洋子　（豊田市ファミリー・サービス・クラブ）
河口　洋子　（豊田市PTA連絡協議会）
御所　陽二　（公募委員）
佐々木　美奈実　（学生によるまちづくりの会）
新保　貴敏　（公募委員）
谷澤　清隆　（豊田市ボランティア連絡協議会）
田端　稔　（豊田商工会議所）«副会長»
松尾　英樹　（豊田市高齢者クラブ連合会）
村林　聖子　（愛知学泉大学附属研究所研究員）«会長»
（出席委員:計１２人）
【欠席者】（委　員）畝部　真紀　（TIAボランティア）
斉藤　尚文　（元中京大学教授）
早川　信　（あいち豊田農業協同組合）
湊　裕　（連合愛知豊田地域協議会）

【付議説明者】野依　真人　（企画政策部企画課　課長）
宮川　恭子　（企画政策部企画課　担当長）
永田　知恵　（企画政策部企画課　主査）

【事務局】塚田　良　（総務部副部長）
藤田　憲彦　（総務部行政改革推進課 課長）
伊藤　亮　（総務部行政改革推進課 副課長）
杉野森　美賀　（総務部行政改革推進課 主査）

【次第】
1　開会
2　会長あいさつ
3　新委員の紹介
4　議事
「第２期 豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」２０２１年度実績評価について　【報告】
5　閉会

（文責は事務局。訂正することがあります。）

【議事】「第２期 豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」２０２１年度実績評価について（報告）

〇委員
・恵那市・豊田市共同開催の FIA 世界ラリー選手権について、市民、特に高齢者がどのように楽しめるか、パンフレットを見てもわかりにくい。わかりやすい PR 方法はないか。
〇説明者
・市の広報をはじめ様々な媒体を活用し、PR 方法を検討していく。
〇会長
・具体的な情報発信のアイディアがあるか。
〇委員
・以前にラリーのパンフレットを見たが、自分がどのように参加できるのか、値段や条件などわからなかった。「僕と彼女とラリーと」DVD の取扱い含め、シンプルに伝えて欲しい。

〇委員
・「基本目標④ 地域共生社会の実現」について、コロナで達成できなかった８項目の指標を工夫して伸ばしていただきたい。
〇説明者
・集合型からオンライン開催への変更や、人数制限を行うなど、工夫しながら取組を進めていく。

〇委員
・少子化の問題に対し、女性が働きやすい環境を整えることが重要だと考える。また、高齢化に伴い、高齢者がどの程度介護費を使っているか。
・持続可能な社会を目指す SDGS の取組、特に農業について真面目に取り組んで欲しい。
〇説明者
・女性が働きやすく、子供を生み育てやすい社会について引き続き検討を進める。健康づくり事業の中でも、「ずっと元気！プロジェクト」では介護費用の抑制を目標として取組を進めていく。
・本市は、「SDG s 未来都市」として先導的に取組を進めている。農業についても所管課を中心に取組を進めている。

〇委員
・益富地区はかつての新興住宅地で、高齢化が進み、独居の高齢者が多くなっている。この課題に対してどのような取組・事例があるか。

〇説明者
・地域のコミュニティの維持に対し、都市部・山村部それぞれ課題を抱えている。高齢者クラブや自治区には協力をいただいている。市としても見守りの仕組みづくりを進めている。

〇委員
・昨今大変に厳しい観光業界、特にグリーンツーリズムや各地域の観光協会への支援をお願いしたい。地域バスの見直しはどのように進めるか。
〇説明者
・本戦略には、グリーンツーリズムの記載はないが、観光マーケティング推進事業において、ツーリズムとよたへの補助事業が掲載されている。また、地域バスについて、今年度、豊田市地域公共交通計画の策定作業を進めている。関係課と連携しながら検討を進めていく。

〇会長
・コロナによる影響で、プラスの面はあったか。例えば、オンラインの活用で新たなつながりが生まれるなど。具体の事例や数字で表れるものがあるか。
〇説明者
・都市部と山村部の交流コーディネート事業においては、オンライン化で新規の参加につながったと聞いている。令和 3 年度実施の「市民意識調査」では初めてWEB 回答を導入し、若い世代の回答率が上昇するなど、幅広い意見の聴取につながった。

〇委員
・元気アップ事業、ふれあいサロンなど健康づくりを通じた健康寿命の延伸、介護費の抑制している根拠資料があるか。あれば参加者の励みになる。また、後継者不足で高齢者クラブ自体がなくなっているところもあり、市の支援をお願いしたい。
〇説明者
・介護予防の取組である「ずっと元気！プロジェクト」は、5 年間の事業終了後に具体的な数値として結果をお示しできる予定である。

〇委員
・「とよた出会いの場プロジェクト事業」について、コロナ禍により対面で事業実施が難しかったと思うが、今後の見通しはどうか。
〇説明者
・令和 3 年度の実績では、オンライン形式での活動を 8 回実施している。

〇委員
・多子社会の実現について調査研究しており、青少年センターや埼玉県に話を聞いた。埼玉県が行っているマッチングアプリについて、青年会議所での導入を検討したが、予算の関係で実現できなかった。対個人だけではなく、企業と連携した婚活が行えるとよい。

〇委員
・豊田市は「とよた急病・子育てコール 24 運営事業」など、子育てに手厚いと感じている一方、先日、地域保健課への電話対応で冷たい対応があったと聞いている。また、待機児童ゼロをうたっているが、車を所持しておらず、乳幼児もいて、歩いて行ける距離の園しかいけないのに第一希望の園には入れず、入園を諦めている方がいることも知っておいてほしい。

〇委員
・四郷駅周辺の大規模開発は、人口減少・家族形成期の流出抑制という視点での取組か。また、それ以外の転出抑制の対策について教えて欲しい。
〇説明者
・本市は、自動車関連企業が多く立地しており、就職期に転入して、家族形成期に市外に転出する傾向がある。定住促進課が、定住促進プロモーション事業として、豊田市の住みよさの PR や転出超過の対応について調査研究を進めている。

〇委員
・福祉系に就職を考えていたが、福祉業界は、重労働である割に給与が低い。自分がこの先子どもができて、その後に介護問題が出てくることに不安を感じている。周囲には将来を悲観して、子どもを持ちたくないと言っている子もいる。半面、豊田市は手厚い取組があり、継続して欲しい。
・若者の出会いの場については、ボランティア団体や地域活動を通じて結婚している子もおり、それらの活動が婚活につながるのではないかと思う。
〇説明者
・若い方が将来に不安を感じることのないよう、希望の持てるような社会を作っていきたい。
〇委員
・PTA で独自に「思春期教室」と同じような内容の講義を外部の講師を招いて実施している。市の事業にある「思春期教室事業」の仕組みはどんなものか。
〇説明者
・「思春期教室事業」は、実施希望のあった学校に対して行っている。そのほか、市民向けに市民活躍支援課が「生涯学習出前講座」を取りまとめている。

〇委員

・豊田商工会議所青年部の婚活事業で、50～60 人位参加があり、10 組のペアが成立した。

・コロナの集団感染に対する懸念もある中、今年度おいでんまつりが無事開催できた。今後も、各自意識をもってウィズコロナで取組を進めていく必要があると認識している。

〇会長

・実績評価の中で、コロナの影響が大きく、実施が難しいものはあったが、着実に事業を進めてきたものがあるということを受け止めてこの会議を終了する。